水害について

〈そもそも水害とは〉

雨がたくさんふったり、ふり続いたりして、家や道路などに水がつかり、命や財産がうばわれることを水害といいます。

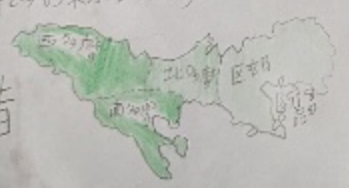
〈実際におこった水害のじょうたいは？〉

昭和56年8月に北海道中央部で台風発生のえいきょうである狩川流いきは、第二次大戦後最大の降雨量になり、614kmの2、22、500戸の家屋が浸水の被害にあいました。

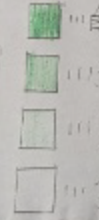
〈水害のおきかた＋ふせぐ方法〉

昔と今の東京都の木美子に変化があります。それは自然の多さです。昔は、田や畑が広がっていました。が、都市化で土が少なく保水力が低下しました。現在は、アスファルトで地面にすいこまなくなりました。その結果、川や下水道に水が一気に流れこみ水害がおきます。

〈昔と今の東京都の図〉



昔



〈今〉

このように東京の自然の割合が減ってきています。このまま自然がへりつづけると水害がおきやすくなるので、ふせぐ方法①

「自然をふやそう」

また小学生はむずかしいので、自然を守るとりくみでもいいので取りくみましょう。そうすると水害がおきにくくなります。ふせぐ方法②

「川を整備する」

川はばを広げたり、川底を深くしたりして、水をたくさんそしてスムーズに流れるようにしています。ふせぐ方法③

「地下に大きな空間を作る」

地下に大きな空間を作れば、雨水をたくさんためられます。

〈自分オリジナル方法〉

1雨水をたくわえ生活水にする。

2アスファルトに水をしみこませる。

人が水がしみこむアスファルトをつくり水をしみこませる。

〈最後に〉

今日ぼくが伝えたいことは、水害をおこさないようにしていこうということなので水害をふせぐ方法をみんなで力を合わせて取りくんでいこう。